

ボールポゼッションとカウンター攻撃から生まれる得点率の比較について

浅津 知大 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 松田 保

キーワード：ボールポゼッション、カウンター攻撃、得点率

1. 緒言

2010年FIFAワールドカップにおいてボールポゼッション、ボール支配率をメインとするスペイン代表が世界一となり、このことが更に注目されるようになってきた。

カウンターでは相手ゴール前の人数が少ないため、スペースが多いことや、ディフェンダーが前掛りになっていてディフェンスの裏を狙いやすい、守備の形が整っていないため崩しやすいなどの利点がある。

現代サッカーではボールポゼッションが重要だと考えられるようになり、各国でもボールポゼッションの練習を中心として行われている。しかし、カウンター攻撃から得点となっている場合が多く見られる。そこで、ボールポゼッションとカウンター攻撃の得点率はどちらが高いのかを研究することにした。

2. 研究方法

2011南アフリカワールドカップの決勝トーナメントの映像を分析する。ボールポゼッション時とカウンター時のパスの本数にも着目し効果的な攻撃方法を比較していく。得点シーンに着目して研究を行う。

3. 結果と考察

2010南アフリカワールドカップでは、カウンターでの得点が多く挙げられている。ほとんどの国が、ポゼッションを重要としボールを保持することを大事にする。それがカウンターの得点が多い要因ではないのかと考える。ボールポゼッション

をすることでラインも高くなり、前に数的優位を作るために人数をかけるようになる。そうしたことから、裏のスペースが生まれる、そこにスピードを持ったダイレクトプレーをすることで多くの得点が生まれた。

最終的な結果を見る限り、ボールポゼッション率は負けたチームが上回っていることのほうが多い。負けていたら当然攻めなければならないし、勝っていれば引いて守ることも多くなる。そのことから、引いて守り失点を防ごうとし、得点のほしいほうはボールを支配し、得点を狙っているが、それが結果には結びついてないといえる。

得点を奪うためには、相手の陣形が整っておらず、短い時間で攻めることが、点をとるために重要である。しかし、試合で勝利するためには、スペインのような、ポゼッションもできカウンターもできるチームが最も勝率が高い。

4. 引用・参考文献

西部謙司 (2008) 戦術に関してはこの本が最高峰 東邦出版

Technical news Vol.15